

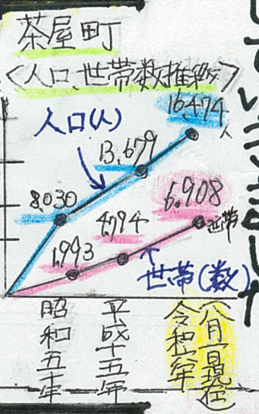
茶屋町の魅力新聞

茶屋町とは

倉敷市の中東端にある平野地帯に位置しています。一九八八年に瀬戸大橋線が開通しました。岡山駅まで20分弱、香川県高松市まで40分で結ばれていること等から岡山都市圏のベッドタウンとなり、人口が増加しました。駅を忠に市街地が東へと拡大し、街の景色が急速に変化していきましました。

歴史

茶屋町の歴史は千拓です。四百年ほど前まで当地周辺一帯は完全に海で「吉備の穴海」と呼ばれていました。近世に徐々に千拓されていき、陸地化になりました。その後穀倉地帯として米と伝説をすてます。茶屋町駅前の鬼の広場では毎年秋に



茶鬼丸



令和五年に50周年を迎えた茶屋町小学校。これは茶屋町小学校の50周年記念に作られたオリジナルのキャラクターです。



茶屋町駅構内に飾られている巨大な鬼

鬼について

茶屋町。茶屋町の鬼は岡山市の吉備津神社の温羅伝説にさかのぼるといわれており、茶屋町では約二百年前から鬼祭りが行われていました。昭和三十年代に入ると鬼が姿を消したと昭和五十年、町民有志により茶屋町保存会が結成されました。鬼はやし部と鬼おどり部の二部門があり、地元や近隣の行事、施設への訪問をして地域の発展と伝説をすてます。茶屋町駅前の鬼の広場では毎年秋に

発行所
倉敷市立茶屋町小学校
6年5組
(住田彩音)

発行日
令和(6)年
(8)月(14)日

鬼の伝統を守るために

私は生まれも育ちも茶屋町です。私が正統から通っていた茶屋町保育園では年長の約40名が運動会で手作り鬼のお面をつけて追分のあるおどりをひろうします。春から時間

鬼祭りが行われており、百匹以上の鬼が集結し見る人を魅了させてくれます。鬼を怖がる幼児も、シャッケをして勝つとあめ玉をくれるやさしい鬼と握手をしたり、写真撮影を撮ったりするうちに鬼に心を許し、祭りの終には鬼に懐き姿も見られます。

鬼のお面は、今でも自宅に保管して作られています。また私の通う茶屋町小学校の給食でもおにぎりが出たり、鬼保存会を作り後世に伝統を受け継ぐ行事があり、鬼を身近に感じられる環境が整えられています。

茶屋町駅・鬼の広場

編集後記

茶屋町の歴史を調べてみて、今まで知らなかった茶屋町の魅力を発見することができました。まだ茶屋町について知らないことがたくさんあると思うので調べてみます。また茶屋町地区にかぎらず、倉敷の伝統を、どうやって後世につないでいるのかを調べていきたいと思っています。



私と弟が作成した鬼のお面です



茶屋町小学校の新校舎は鬼の形をしています。



茶屋町の地形を形取った記念碑



茶屋町の鬼